

Tmax リリースノート

Tmax v6.0



Copyright © 2016 TmaxSoft Co., Ltd. All Rights Reserved.

Copyright Notice

Copyright © 2016 TmaxSoft Co., Ltd. All Rights Reserved.

45, Jeongjail-ro, Bundang-gu, Seongnam-si, Gyeonggi-do, 13613, South Korea

Restricted Rights Legend

All TmaxSoft Software (Tmax®) and documents are protected by copyright laws and international convention. TmaxSoft software and documents are made available under the terms of the TmaxSoft License Agreement and this document may only be distributed or copied in accordance with the terms of this agreement. No part of this document may be transmitted, copied, deployed, or reproduced in any form or by any means, electronic, mechanical, or optical, without the prior written consent of TmaxSoft Co., Ltd.

Nothing in this software document and agreement constitutes a transfer of intellectual property rights regardless of whether or not such rights are registered) or any rights to TmaxSoft trademarks, logos, or any other brand features. This document is for information purposes only. The company assumes no direct or indirect responsibilities for the contents of this document, and does not guarantee that the information contained in this document satisfies certain legal or commercial conditions. The information contained in this document is subject to change without prior notice due to product upgrades or updates. The company assumes no liability for any errors in this document.

このソフトウェア(Tmax®)マニュアルの内容とプログラムは、日本国の著作権法および国際条約によって保護されています。マニュアルの内容とプログラムは、TmaxSoft Co., Ltd.との使用許諾契約書の下でのみ使用することができ、マニュアルは使用許諾契約で許可されている範囲を除いては、配布または複製することができません。TmaxSoftの書面による事前の承諾を得ることなく、このマニュアルの全部または一部を電子的または機械的な方法を問わず、転送、複製、配布したり、または二次的著作物を作成する等の行為を一切禁じます。

このソフトウェアのマニュアルとプログラムの使用許諾契約は、いかなる場合においても、マニュアル及びプログラムと関連する知的財産権(登録の有無を問わず)を譲渡するものと解釈されず、TmaxSoftのブランド、ロゴ、商標等の使用権限を与えるものではありません。マニュアルは、情報を提供する目的でのみ提供しており、これに伴う契約上の直接的ないしは間接的な責任を負わず、マニュアルの内容は法律上もしくは商業的な特定の条件が満たされることを保証しません。マニュアルの内容は、製品のアップグレード及び修正により、その内容が予告なく変更されることがあり、内容上の誤りがないことを保証しません。

Trademarks

Tmax®, Tmax WebtoB® and JEUS® are registered trademark of TmaxSoft Co., Ltd. Other products, titles or services may be registered trademarks of their respective companies.

Tmax®, Tmax WebtoB®, JEUS® は、TmaxSoft Co., Ltd.の登録商標です。その他、記載されている会社名、製品名などは、各社の商標または登録商標です。

Open Source Software Notice

Some modules or files of this product are subject to the terms of the following licenses. : openssl-0.9.7.m, zlib-1.1.4, expat-2.0.0, net-snmp, DCE1.0, pthread, google-diff-match-patch, libevent, getopt

Detailed Information related to the license can be found in the following directory :
\${INSTALL_PATH}/license/oss_licenses

この製品の一部ファイルまたはモジュールは、openssl-0.9.7.m、zlib-1.1.4、expat-2.0.0、net-snmp, DCE1.0、pthread、google-diff-match-patch、libevent、getoptライセンスを遵守します。

詳細情報については、製品ディレクトリーの\${INSTALL_PATH}/license/oss_licensesに記載されている事項を参照してください。

文書情報

文書名: Tmax リリースノート

発行日: 2016年8月5日

ソフトウェアバージョン: Tmax v6.0

ガイドバージョン: v2.1.1

目次

このガイドについて	vii
第1章 はじめに	1
1.1. リリース履歴	1
第2章 Tmax v6.0	3
2.1. 新機能	3
2.1.1. Tmax デプロイメント機能の追加	3
2.1.2. TmaxGrid機能の追加	3
2.1.3. Multiple RMがDB2をサポート	3
2.1.4. セキュリティー機能の強化および柔軟性の提供	3
2.1.5. PHPインターフェースの提供	4
2.2. 機能の改善	4
2.2.1. 名前の長さの拡張	4
2.2.2. 時間精度の改善	4
2.2.3. tmboot / tmdownログ・メッセージの改善	5
2.2.4. Tmaxログ・メッセージの統合	5
2.2.5. デバッグ／リリース・バイナリの統合	5
2.2.6. clilib、svrllibにtmaxoserror関数の追加	6
2.2.7. Svcryptユーザー・ログのサポート	6
2.2.8. ドメイン・ゲートウェイのdirectionの動的変更機能の追加	6
2.2.9. サーバー・プロセスの起動時刻の出力機能の追加	6
2.2.10. MSGSIZEWARN、MSGSIZEMAXオプションの追加	7
2.2.11. ランタイム設定の強化	8
2.2.12. ランタイム・ログレベル変更の強化	9

このガイドについて

対象読者

本書は、Tmax[®](以下、Tmax)を使用してプログラムを開発しようとする開発者とシステム管理者向けに記述しているガイドです。Tmaxの新機能を紹介するほか、以前のバージョンに比べて新しく変更された事項について説明しています。

前提知識

本書は、以前のバージョンのTmaxについてユーザーが熟知していることを前提にします。なお、本書は変更機能を詳細には取り上げません。詳細な内容については、関連ガイドを参照してください。

表記上の規則

表記	意味
<AaBbCc123>	プログラム・ソースコードのファイル名、ディレクトリー
<Ctrl>+C	CtrlキーとCキーを同時に押す
[Button]	GUIのボタン、メニュー名
太字	強調
「」、『』（鍵カッコ）	関連文書、あるいはガイド内の他の章および節の表示
「入力項目」	画面UI上の入力項目
<ハイパーリンク>	メール・アカウント、Webサイト
>	メニューの実行順
+----	下位ディレクトリー/ファイル有り
----	下位ディレクトリー/ファイル無し
<div>参考</div>	参照/注意事項
[図 1.1]	図の名前
[表 1.1]	表の名前
<div>AaBbCc123</div>	コマンド、コマンド実行結果の画面出力、サンプル・コード
[]	オプション・パラメータ値
	選択・パラメータ値

システム要件

	要求事項
プラットフォーム	IBM AIX 5.x / 6.1 / 7.1
	HP-UX 11.xx
	SunOS 5.7~5.9 / SunOS 5.10 / SunOS 5.11
ハードウェア	1GB以上のハードディスク空き容量
	512MB以上のメモリー空き容量
データベース	Oracle 9~12
	Tibero 4~5
	DB2
	Informix

関連文書

ガイド	説明
Tmax スタートガイド	Tmaxの基本概念と構成について説明しています
Tmax インストールガイド	Tmaxのインストール手順について説明しています
Tmax 運用ガイド	Tmaxを利用するための環境設定ファイルとシステム運用方法について説明しています
Tmax アプリケーション開発ガイド	Tmaxアプリケーション・プログラムの開発で使用するAPIの概念と使用方法および例について説明しています
Tmax メッセージリファレンスガイド	Tmax製品の使用時に発生する可能性のあるメッセージ(エラー・メッセージを含む)と、その対応方法について説明しています
Tmax リファレンスガイド	Tmaxアプリケーションの開発に使用するコマンドおよびクライアントとサーバーの接続、通信に使用する関数の使用方法と例について説明しています
Tmax JTmaxServer ユーザガイド	Tmaxが提供するJTmaxServerの環境構成と環境設定方法、APIの使用法および例について説明しています
Tmax FDLリファレンスガイド	Tmax FDLL関数の定義とサンプル・プログラムを利用して、FDLが提供する機能を活用する方法について説明しています
Tmax Host-linkガイド(SNA LU0, SNA LU6.2)	Tmaxとホストを接続するHost-linkの基本概念と環境設定方法および設定例について説明しています
Tmax WebtAsyncユーザガイド	TmaxのAsync Java Gatewayとインバウンドおよびアウトバウンド通信を非同期で行うためのJavaライブラリーであるWebTAsyncについて説明しています
Tmax JCAユーザガイド	TmaxのWebTJCAの基本概念と環境設定方法、APIの使用法および例について説明しています
Tmax JTCユーザガイド	JTCの基本概念と環境設定方法、APIの使用法および例について説明しています

ガイド	説明
Tmax HMSユーザガイド	HMS(Hybrid Messaging System)の基本概念と環境設定方法、APIの使用法および例について説明しています
Tmax WebTユーザガイド	Web経由でTmaxサービスの提供を受けるためにJEUSのWebT APIを使用してクライアント・プログラムを開発するプログラム開発者向けに、WebTの基本概念と環境設定方法、APIの使用法、WebTとJTmaxのモニタリング方法などについて説明しています
Tmax COBOLユーザガイド	COBOLを使用してTmaxサーバー・プログラムを作成する方法について説明しています
Tmax ゲートウェイガイド(シリアル)	Tmaxサーバーと非Tmaxサーバーがシリアル通信を行う場合にインターフェースを担当するSERIAL(RS232)ゲートウェイについて説明しています
Tmax ゲートウェイガイド(TCP/IP)	Tmaxサーバーと非Tmaxサーバーのインターフェースを担当するTCP/IPゲートウェイについて説明しています
Tmax ゲートウェイガイド(TCP/IPスレッド)	Tmaxサーバーと非Tmaxサーバーのインターフェースを担当するTCP/IPスレッド・ゲートウェイについて説明しています
Tmax ゲートウェイガイド(TCP/IPサービス)	Tmaxサーバーと非TmaxサーバーがTCP/IP通信を行う場合にインターフェースを担当するTCP/IPサービス・ゲートウェイについて説明しています
Tmax ゲートウェイガイド(Webサービス)	Tmaxサービスを変更せずにWebサービスで使用するために提供されるWebサービス・ゲートウェイについて説明しています
Tmax ゲートウェイガイド(X.25)	Tmaxサーバーと非Tmaxサーバーのインターフェースを担当するX.25ゲートウェイについて説明しています
Tmax プログラミングガイド(4GL)	4GL言語を使用してTmaxアプリケーションを開発するユーザー向けに、言語別インターフェースと関連関数について説明しています
Tmax プログラミングガイド(ダイナミックライブラリ)	TmaxのTDL(Tmax Dynamic Library)を使用してプログラムを開発するユーザー向けに、TDLを使用するための環境設定と提供されるAPIの使用法について説明しています
Tmax プログラミングガイド(MultipleRM)	Tmax MultipleRMサーバー・プロセスの概念と使用法について説明しています

ガイド	説明
Tmax プログラミングガイド(RCA)	Tmaxクライアント・ライブラリーを使用できない従来の通信プログラムやPDAなどをTmaxシステムと接続できるようにサポートするRCAモジュールと環境設定方法について説明しています
Tmax プログラミングガイド(RPC)	Tmax RPC(Remote Procedure Call)プログラムモデルの概念と機能および構成要素について説明しています
Tmax プログラミングガイド(RQ)	TmaxのRQ(Reliable Queue)の概念と使用方法について説明しています
Tmax プログラミングガイド(SQ)	TmaxのSQ(Session Queue)の概念と使用方法について説明しています
Tmax プログラミングガイド(UCS)	Tmax UCSサーバー・プロセスの概念と使用方法について説明しています
TmaxGrid ユーザガイド	TmaxGridの概念と使用方法について説明しています
Tmax TCacheガイド	TCacheの概念と使用方法について説明しています
Tmax XA ライブラリ及びXAゲートウェイガイド	XAライブラリーとXAゲートウェイの使用方法について説明しています

お問合せ先

Korea

TmaxSoft Co., Ltd.
45, Jeongjail-ro, Bundang-gu,
Seongnam-si, Gyeonggi-do, 13613
South Korea
Tel: +82-31-8018-1000
Fax: +82-31-8018-1115
Email: info@tmax.co.kr
Web (Korean): <http://www.tmaxsoft.com>
TechNet: <http://technet.tmaxsoft.com>

USA

TmaxSoft Inc.
101 North Wacker Drive, Suite 2014,
Chicago, IL 60606
U.S.A
Tel: +1-312-525-8330
Email: info@tmaxsoft.com
Web (English): http://www.tmaxsoft.com/us_en/home

Japan

TmaxSoft Japan Co., Ltd.
5F Sanko Bldg, 3-12-16 Mita, Minato-Ku, Tokyo, 108-0073
Japan
Tel: +81-3-5765-2550
Fax: +81-3-5765-2567
Email: info@tmaxsoft.co.jp
Web (Japanese): <http://www.tmaxsoft.co.jp>

China

Beijing TmaxSoft System Software Co., Ltd.
Room103, No.2 Huizhong Building, Seven Street Shangdi,
Haidian District, Beijing, 100085
P.R.China
Tel: +86-10-6298-8827
Email: info@tmaxsoft.com.cn
Web (Chinese): http://www.tmaxsoft.com/cn_en/home_cn_en

Brazil

Tmax Brasil Sistemas e Serviços Ltda.
Av. Copacabana, 177, sala 32~35 Empresarial 18 do Fortel
Alphaville Barueri, Sao Paulo, 06472-001
Brazil
Tel: +55-11-4191-3100
Fax: +55(11) 4191-3705 (extension#112)
Email: info.bra@tmaxsoft.com
Web (Portuguese): http://www.tmaxsoft.com/br_en/home_br_en

Russia

Tmax Rus L.L.C.
Leninsky prospekt, 113/1 (Park Place Moscow),
Office 318e, Moscow, 117198
Russia
Tel: +7(495)970-01-35
Email: info.rus@tmaxsoft.com
Web (Russian): http://www.tmaxsoft.com/ru_ru/home_ru_ru

Singapore

Tmax Singapore Pte. Ltd.
430 Lorong 6, Toa Payoh #10-02,
OrangeTee Building, 319402
Singapore
Tel: +65-6259-7223
Fax: +65-6258-7112
Email: info.sg@tmaxsoft.com
Web (English): http://www.tmaxsoft.com/sg_en/home_sg_en

United Kingdom

TmaxSoft UK Ltd.
215 Knyvett House, Watermans Business Park,
The Causeway, Staines TW18 3BAB
United Kingdom
Tel: +44-1784-895005
Email: info.uk@tmaxsoft.com
Web (English): http://www.tmaxsoft.com/gb_en/home_gb_en

Canada

TmaxSoft Canada, Inc.
2425 Matheson Blvd East, 8th floor,
Unit 824 Mississauga, ON, L4W 5K4
Canada
Tel: +1-905-361-2888
Email: info.canada@tmaxsoft.com
Web (English): http://www.tmaxsoft.com/ca_en/home_ca_en

Australia

TmaxSoft Proprietary Limited
L32, 101 Miller Street, North Sydney 2060
Australia
Tel: +91-9845-330-704
Email: info.aus@tmaxsoft.com
Web (English): http://www.tmaxsoft.com/au_en/home_au_en

India

TmaxSoft Technologies Private Limited
Sobha Alexander Plaza, 3rd Floor,
16/2 Commissariat Road, Bangalore-560025
India
Tel: +91-9845-330-704
Email: info.india@tmaxsoft.com
Web (English): http://www.tmaxsoft.com/in_en/home_in_en

Turkey

TmaxSoft Co., Ltd. Turkey Liaison Office
Windowist Tower. Eski Buyukdere Cad. No:26,
Maslak 34467 Istanbul
Turkey
Tel: +90-544-553-6045
Email: cslee@tmaxsoft.com
Web (English): http://www.tmaxsoft.com/tr_en/home_tr_en

第1章 はじめに

本書は、リリース対象製品の新機能と、以前のバージョンとの変更点をまとめたガイドです。既存のTmaxバージョンをさらに強化し、本番環境向けに多様な機能を追加しました。ただし、本書でTmaxの内容全体を扱ってはいません。詳細については、関連ガイドを参照してください。

1.1. リリース履歴

日付	バージョン
2015年7月31日	Tmax v6.0

第2章 Tmax v6.0

本章では、Tmax v6.0のリリース時に追加した新機能と変更した機能について簡単に説明します。

2.1. 新機能

2.1.1. Tmax デプロイメント機能の追加

サーバー・アプリケーション、リソース・ファイル、環境設定ファイルなどの配布や起動を管理するためのフレームワークを導入しました。履歴とバージョンの管理機能を提供します。詳細な使用方法については、「Tmax デプロイメントユーザガイド」を参照してください。

2.1.2. TmaxGrid機能の追加

TmaxGridを利用すれば、マルチノード環境上でインメモリー・データの同期を取ることができます。多数の業務プログラムは、簡単なTmaxGrid APIを実装するだけで、分散ロック、キュー、共有設定などの機能を利用することができます。詳細な使用方法については、「TmaxGrid ユーザガイド」を参照してください。

2.1.3. Multiple RMがDB2をサポート

Tmax v6.0バージョンから、Multiple RMがDB2をサポートします。詳細な使用方法については、「Tmax アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

2.1.4. セキュリティー機能の強化および柔軟性の提供

既存のサーバー間で暗号化／複合化をしようとする場合は、Tmaxが提供する基本的なセキュリティー・モジュールのみ使用可能でした。Tmax v6.0バージョンからは、ユーザーが直接、目的のセキュリティー・モジュールを適用できるようにし、セキュリティー機能の柔軟性を高めました。そして、以前のバージョンでは、暗号化／複合化をCLHが担当していましたが、Tmax v6.0バージョンからはこれを分離してCASで実行できるようにスレッドを提供し、暗号化の性能が向上しました。

2.1.5. PHPインターフェースの提供

PHPでTmaxクライアントの機能が使用できる拡張モジュールを提供します。詳細な使用方法については、「Tmax プログラミングガイド(4GL)」を参照してください。

2.2. 機能の改善

2.2.1. 名前の長さの拡張

名前の長さを既存の15桁から63桁に拡張しました。

- 設定値の詳細

```
Domain Name | Node Name | SVRGROUP | Server Name | Service Name | OWNER | HMSNAME  
| Gateway Name | RQ Name (62桁)
```

2.2.2. 時間精度の改善

秒単位だった時間精度を、Tmax v6.0からはミリ秒単位に変更しました。SVCTIME、TXTIME、BLOCKTIMEなど、環境設定関連の時間精度をミリ秒単位で入力できます。

- 入力方式

- Tmax v5.0までの方式と互換性を持ちます。「秒.ミリ秒(sec.millisec)」の形で設定します。たとえば、10.001や10などで設定可能です。ただし、「10.」のように小数点を書いてそれ以下の数字を書かないとCFLエラーが発生するので、注意が必要です。
- 一方、slog、ulog、debug log、svclogなどのログ関連の時間精度はマイクロ秒単位で出力します。

- 出力方式

- ログ関連の時間精度の場合、Tmax v6.0からは「HHMMSS」(Tmax v5.0までの方式)の後ろに小数点とマイクロ秒が続きます。

例)

```
svr333.1005.143119.511001
```

- ユーザーAPIを追加しました。

```
int tpsetsvcmtimeout(int msec, long flags)  
int tx_set_transaction_mtimeout(TRANSACTION_TIMEOUT timeout)
```

- tmadminのrepeat(r)コマンドの「-i s(秒)」オプションにおける「s」をミリ秒に変更しました。

2.2.3. tmboot / tmdownログ・メッセージの改善

- tmboot / tmdownログ・メッセージの改善

tmboot、またはtmdownを行う際に、slogに以下のようにメッセージが出力されるように、機能を改善しました。（「%2」の部分にパラメータとして入力されます）

```
TMM01128 TMBOOT registered, pid = %1 (%2)
TMM01129 TMDOWN registered, pid = %2 (%2)
```

例)

```
TMM.3721.112533.526303:(I) TMAX01128 TMBOOT registered, pid = 3733 (tmboot -S
svr2 ) [TMM0210]
TMM.3721.112533.536627:(I) TMAX01128 TMBOOT registered, pid = 3736 (tmboot -n
tmax8 -S svr1 ) [TMM0210]
```

2.2.4. Tmaxログ・メッセージの統合

エラー・メッセージを容易に解釈できるように、全メッセージのプレフィックスを「モジュール4桁番号」から「TMAX5桁番号」に変更しました。つまり、モジュールに関係なく、「TMAX」をプレフィックスとして使用します。

例)

```
SVR2058 -> TMAX02058
CLH2058 -> TMAX02058
```

2.2.5. デバッグ／リリース・バイナリの統合

既存のデバッグ・バイナリを一般モジュールに統合しました。従来はデバッグ・バイナリを適用するには、デバッグ・バイナリを交替した後にエンジンを再起動する必要がありました。これを、ログレベルを動的に変更し、リアルタイムで適用できるように変更しました。

tmmに接続していない一般モジュール(cfl / uncfl / clientなど)は、TMAX_ERR_MSG / TMAX_DEBUG / TMAX_LOGLVLの設定が必要です。

TMAX_ERR_MSG = Nであれば、ログを出力しません。TMAX_ERR_MSG = Yに設定したら、TMAX_LOGLVL=[DEBUG1〜DEBUG4]レベルにあわせてデバッグ・ログが生成されます(デフォルト値:

DETAIL)。ログ生成レベルを変更するには、TMAX_LOGLVLの調整が必要です。なお、生成されたデバッグ・ログは、TMAX_DEBUG=<logfile_path>に設定されているパスにログ・ファイルとして出力されます。

- tmmに接続するモジュールは、Tmax環境ファイルに設定した各モジュールのデバッグ・ログを設定する必要があります。

```
TMMLOGLVL CLHLOGLVL TMSLOGLVL LOGLVL GATEWAYLOGLVL別
```

デバッグ・ログは、DEBUG1、DEBUG2、DEBUG3、およびDEBUG4で精度を表記します。(DEBUG4が最も詳細なログです)

- DEBUG1: 一般的なレベル
- DEBUG2: トランザクション・レベル
- DEBUG3: その他(主にネットワーク関連)のレベル
- DEBUG4: スレッド・レベル

2.2.6. clilib、svrlibにtmaxoserror関数の追加

tmaxoserrno変数を追加し、TPEOS、TPESYSTEMが発生すれば、OSシステムコールの実行時にerrnoを参照するようにしました。

2.2.7. Svcryptユーザー・ログのサポート

- SVCLOG_FORMAT機能の追加

svclogの項目をユーザーが変更できるように機能を追加しました。一方、既存に出力されていた項目は変更できません。今回追加されたフィールドだけ変更可能です。tmadmin api、tip、snmp、webagentでは追加されたSVCLOG_FORMATを参照できません。

2.2.8. ドメイン・ゲートウェイのdirectionの動的変更機能の追加

- tmadminのsetコマンドを使用し、ゲートウェイのdirection項目を変更できるように機能を追加しました。

```
echo set -w gw3 direction 'BIDIR|B | IN|I | OUT|O' | tmadmin -m
```

2.2.9. サーバー・プロセスの起動時刻の出力機能の追加

- サーバープロセスの起動時刻の出力機能を追加しました。
 - tmadmin api下の構造体にboot_timeフィールドを追加(unix time)

```

- struct tmadm_spr_stat_body
- struct tmadm_spr_stat_ex_body
- struct tmadm_svr_stat_body
  struct {
    int sec;      // unix time second
    int msec;    // millisecond
  } boot_time;

```

- TIP serverにフィールド・キーを追加(unix time)

```

- TIP_BOOTTIME_SEC
- TIP_BOOTTIME_MSEC

```

- tmadminのst -p / st -vに-bオプションを追加(local time)

2.2.10. MSGSIZEWARN、MSGSIZEMAXオプションの追加

Tmax v5.0バージョンでは、1GBを超える単一のメッセージを受信すると、CLHは、そのメッセージを送信したクライアントとの接続を終了させ、接続を許可しませんでした。Tmax v6.0バージョンからはこの機能を拡張し、メッセージの最大サイズをユーザーが指定できるようにするオプションを追加しました。

- MSGSIZEWARN、MSGSIZEMAXオプションの追加

- MSGSIZEWARN

クライアント／サーバーから受信するメッセージのサイズ(純粋なユーザーデータのサイズ)、またはtpallocによって割り当てたバッファのサイズが指定値を超えた場合、SLOGに警告メッセージを出力します。メッセージ自体は正常に受信して処理します。

- 単位: バイト(Byte)
- デフォルト値: 1,073,741,824(1GB)
- 指定範囲: 1,024～1,073,741,824(1GB)

```

(W) TMAX02066 client(192.168.51.185) message size(5001) exceeds
MSGSIZEWARN(2000), service(TOUPPER) : 3 5013 5001 1342177292 [COM3808]
(W) TMAX02066 server(svr2:66) message size(5001) exceeds MSGSIZEWARN(2000),
service(TOUPPER) : 1003 5023 5001 1342177302 [COM3808]

```

- MSGSIZEMAX

クライアント／サーバーから受信するメッセージのサイズ(純粋なユーザーデータのサイズ)、またはtpallocによって割り当てたバッファのサイズが指定値を超えた場合、SLOGにエラーメッセージを出力します。メッセージは無視され、チャンネルへの接続が終了します。

- 単位: バイト(Byte)
- デフォルト値: 1,073,741,824(1GB)
- 指定範囲: 1,024～1,073,741,824(1GB)

```
(E) TMAX02065 client(192.168.51.185) message size(10001) exceeds
MSGSIZEMAX(10000) : 3 10013 10001 1879048204 [COM3807]
```

– 関連モジュール

- CLH: クライアント／サーバーから受信するメッセージ
- jeusgw、tmaxgw、tmaxgwnt: リモート・ゲートウェイから受信するメッセージ
- 以下のコマンドでMSGSIZEMAXを変更します。

```
set -n <nodename> msx <data size>
```

2.2.11. ランタイム設定の強化

- tmaxadminの動的変更範囲の拡大
 - タイムアウト関連項目
 - CHKINT(チェック・インターバル)関連項目
 - ログレベル
- 環境ファイルを容易に追加するために、cfl -a方式を変更しました。既存の制約項目は維持します。(既存の項目は削除できません)
 - 変更前

```
cfl -i ori.m -a add.m -o tmchg
```

– 変更後

```
cfl -a modify.m -o tmchg
```


2.2.12. ランタイム・ログレベル変更の強化

tmadminのchlog2コマンドを使用して、ランタイム途中にログレベルを動的に変更できる機能を追加しました。

変更可能なタイプは、TMM、CLH、TLM、CAS、RS、SQ、TG、TMS、HMS、RQ、GW、SVG、SVR、CLLです。

```
$$1 tmaxsl (tmadm) : chlog2 -t [type_name] [-n name] -l [loglvl]
```

